

丸亀市の地域特性と課題の整理

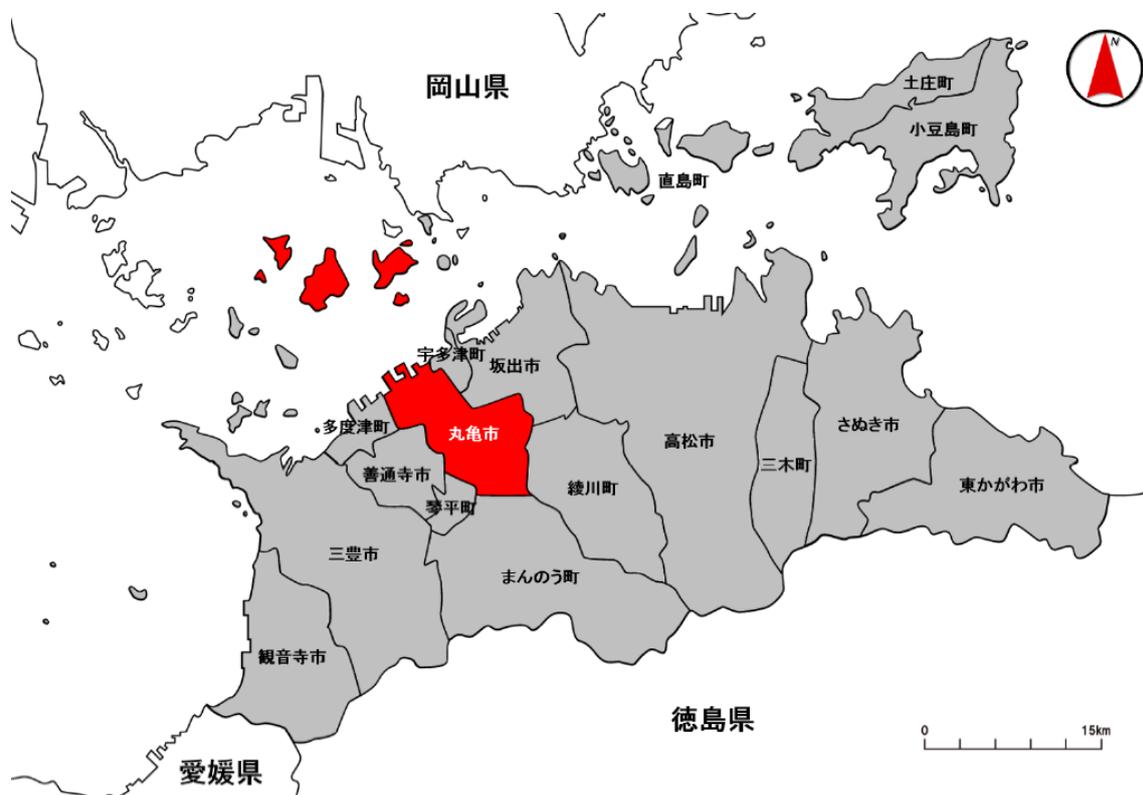
1. 自然状況に関する地域特性と課題の整理

(1) 位置と地勢

丸亀市は、香川県の海岸線側ほぼ中央部に位置し、北は風光明媚な瀬戸内海国立公園、南は讃岐山脈に連なる山々、陸地部は讃岐平野の一部で、平坦な田園地帯が広がっています。そして、海岸沿いには埋立地が広がり、北に瀬戸内海を望み、本島、広島、手島、小手島、牛島などの島々が点在しています。

広ぼうは、東西 24.16km、南北 23.82km です。市の陸地部の中央に標高 422m の飯野山（別名、讃岐富士）がそびえ、その北方に青ノ山、中心には土器川が流れ、多数のため池が水辺空間を創出しています。

海と山に囲まれ、豊かな自然環境が残っている地域特性を活かして、田園や里山などを保全しつつ、都市生活との調和がとれた環境を育てていく必要があります。



丸亀市の位置

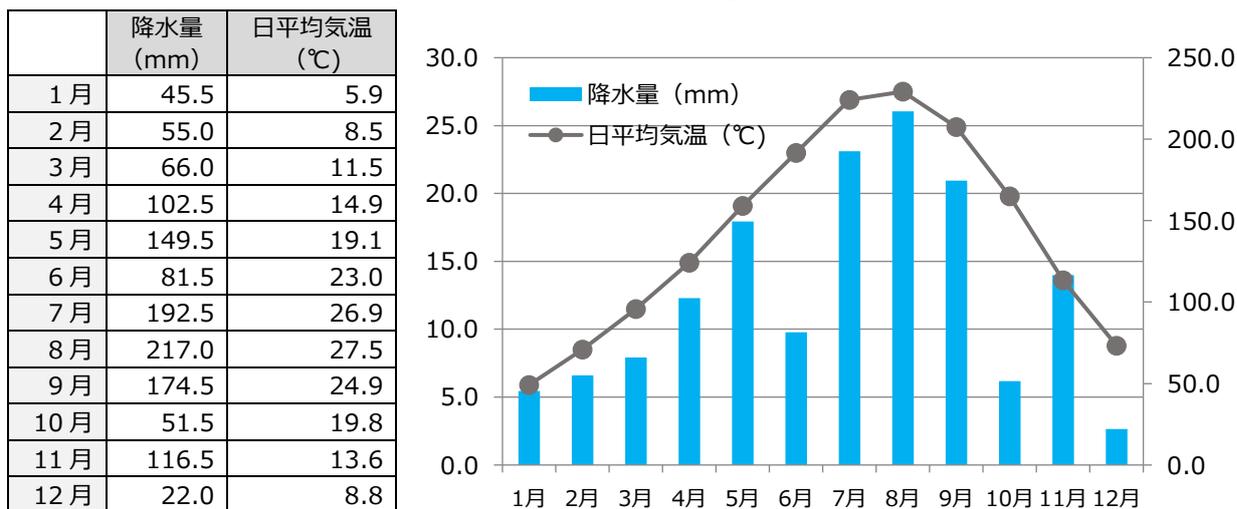
(2) 気候

本市は典型的な瀬戸内海型気候で、降水量が少なく、比較的温暖で日照時間が長いという特徴を持っています。市内には、気象観測所は設置されていませんが、隣接する多度津町に設置されている多度津特別地域気象観測所で常時気象観測が行われています。

日照条件に恵まれ、太陽光を利用した再生可能エネルギーの導入ポテンシャルを活かしていくことが課題です。

2021年の降水量は最小45.5mm(1月)～最大217.0mm(8月)、日平均気温は最低5.9℃～最高27.5℃でした。

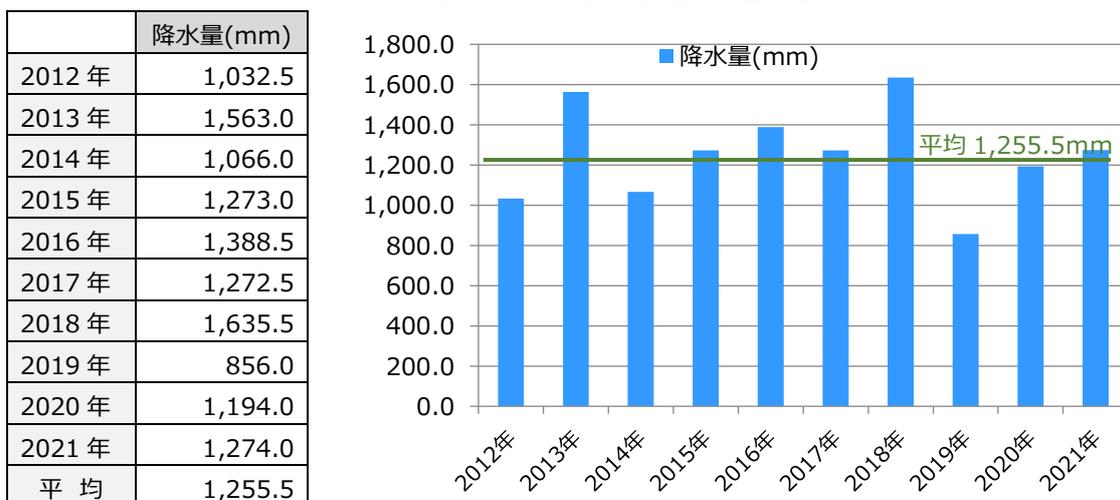
2021年の降水量・日平均気温



出典：気象庁ホームページ「多度津特別地域気象観測所(年ごとの値)」を加工して作成

ここ10年間の平均年間降水量は1,255.5mmでしたが、856.0mm(2019年)から1,635.5mm(2018年)までの変動があります。

2012年～2020年の年間降水量推移



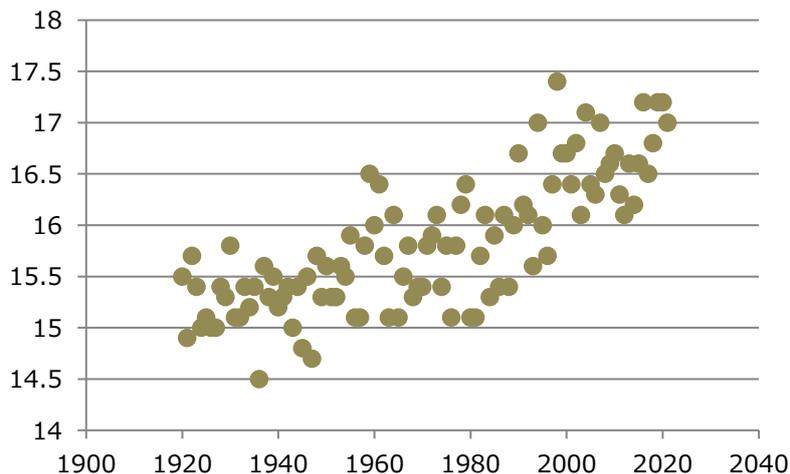
出典：気象庁ホームページ「多度津特別地域気象観測所(年ごとの値)」を加工して作成

平均気温の推移を 20 年間平均で見ると、1920 年～1939 年（15.3℃）から 1940 年～1959 年（15.4℃）はほぼ変化がありませんでしたが、1960 年～1979 年（15.7℃）や 1980 年～1999 年（16.0℃）は 20 年間に 0.3℃ずつ上昇し、2000 年～2021 年（16.7℃）の 21 年間には 0.7℃上昇しており、温暖化の傾向があらわれています。

身近に迫っている地球温暖化への対策が求められています。

1920 年～2021 年の平均気温の推移

	20 年間の平均気温
1920～1939 年	15.3℃
1940～1959 年	15.4℃
1960～1979 年	15.7℃
1980～1999 年	16.0℃
2000～2021 年	16.7℃



出典：気象庁ホームページ「多度津特別地域気象観測所(年ごとの値)」を加工して作成

ここ 10 年間の平均日照時間は 2,165.7 時間であり、全国平均を上回っています。また、丸亀市の日照時間は、香川県内での平均も上回っています。

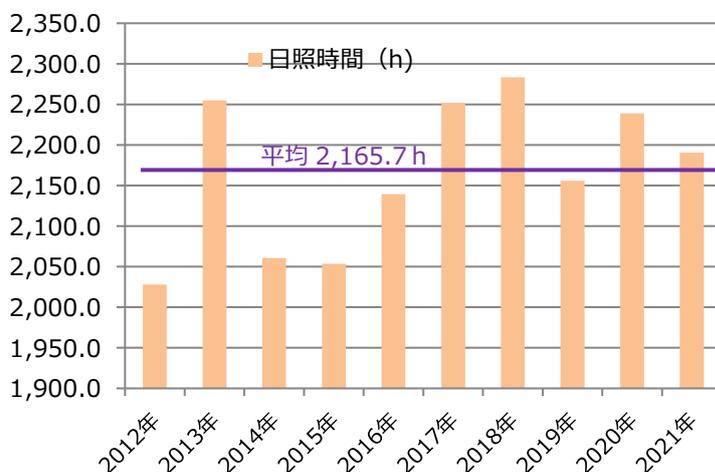
（2020 年の全国日照時間平均値：1,662 時間、香川県の日照時間：2,046 時間（全国 14 位※））

※年間日照時間数の平均値（1991～2020 年）

日照時間については、2,027.9 時間（2012 年）から 2,283.2 時間（2018 年）までの変動があります。

2012 年～2020 年の年間日照時間推移

	日照時間 (h)
2012 年	2,027.9
2013 年	2,254.9
2014 年	2,060.8
2015 年	2,053.4
2016 年	2,139.4
2017 年	2,252.0
2018 年	2,283.2
2019 年	2,155.7
2020 年	2,238.8
2021 年	2,190.7
平均	2,165.7



出典：気象庁ホームページ「多度津特別地域気象観測所(年ごとの値)」を加工して作成

(3) 水象

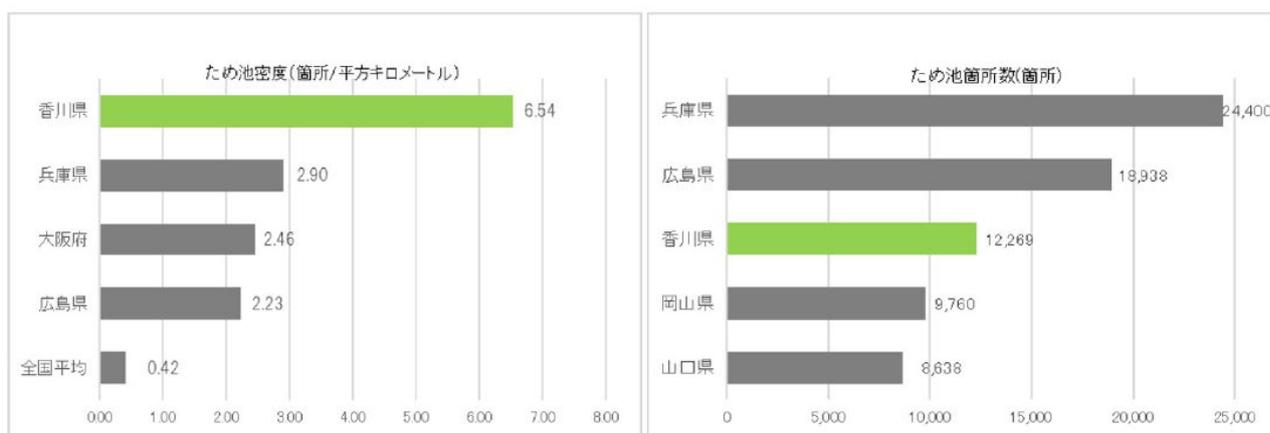
本市の中心には県内唯一の一級河川である土器川が貫流しており、東側は大東川、西側は金倉川が流れています。また、地理的に降水量が少なく、常に水不足に悩まされてきたことから、主に農業用水として、市内には多数のため池があります。

丸亀市のため池

ため池数	総貯水量	池敷面積	満水面積
454ヶ所	11,021 千m ³	436ha	370ha

資料：令和3年 香川県統計年鑑

香川県のため池は、12,269ヶ所（全国比7.8%）であり、兵庫県、広島県に次いで全国第3位です。県土の総面積に対するため池の密度では全国1位となっています。



資料：香川県ホームページより

(4) 環境・生物多様性を保全する上で重要な地域

本市には、環境保全や生物多様性の視点から重要な地域が多くあります。

生物多様性を社会に浸透させる、人と自然との関係を見直し再構築する、森・里・ため池・川・海とのつながりを確保するなど、本市の地域性に合致した生物多様性地域戦略を構築することが課題です。

環境保全・生物多様性上の重要地域
瀬戸内海国立公園
大高見峰緑地環境保全地域
十二社宮社叢（香川県自然記念物）
青の山鳥獣保護区
田村池鳥獣保護区
オニバス生育地（数ヶ所のため池）

資料：丸亀市第二次環境基本計画

2. 社会状況に関する地域特性と課題の整理位置・地勢

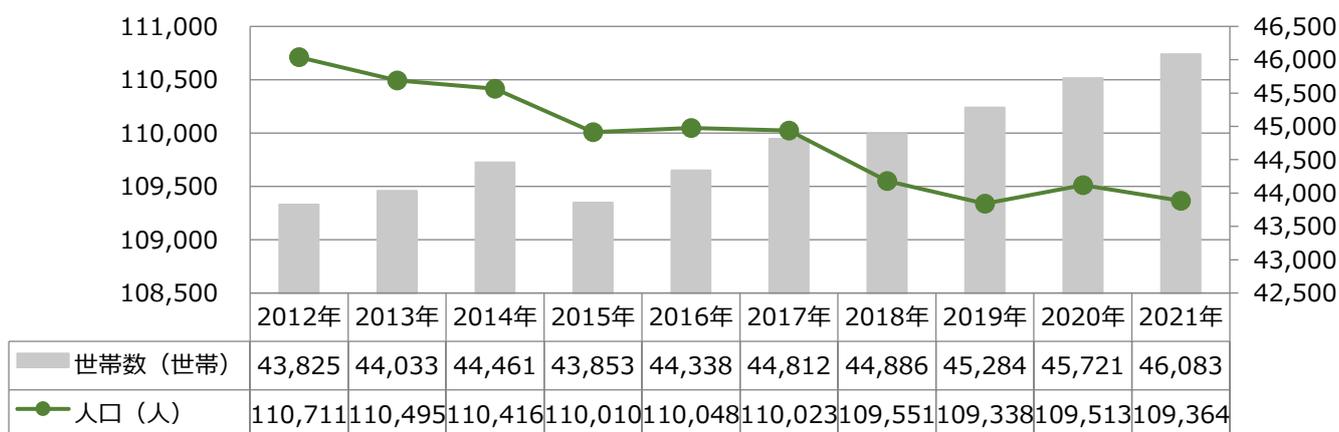
(1) 人口と世帯

住民基本台帳に基づく2021年10月1日時点の人口は109,364人で2012年から1,347人減少する一方で、世帯数は46,083世帯で2012年から2,258世帯増加しています。

また、国勢調査に基づく年齢3区分別人口比率の推移をみると、2005年から2020年にかけて15歳未満の年少人口割合は1.5ポイント減少、15歳以上65歳未満の生産人口割合は6.5ポイント減少する一方で、65歳以上の老年人口割合は8.1ポイント増加しています。

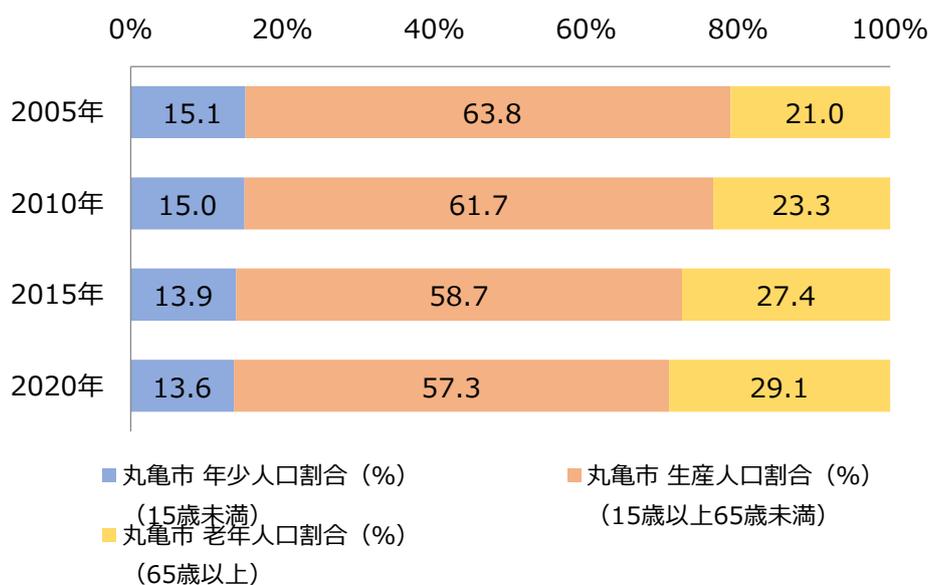
人口減少と少子高齢化により、地域活力の低下、行政サービス維持の困難、地域経済の衰退、社会保障に係る財政負担増などが懸念されています。

人口・世帯数の推移



資料：丸亀市統計書（各年10月1日常住人口）

年齢階層別人口割合の推移



資料：国勢調査

(2) 土地利用

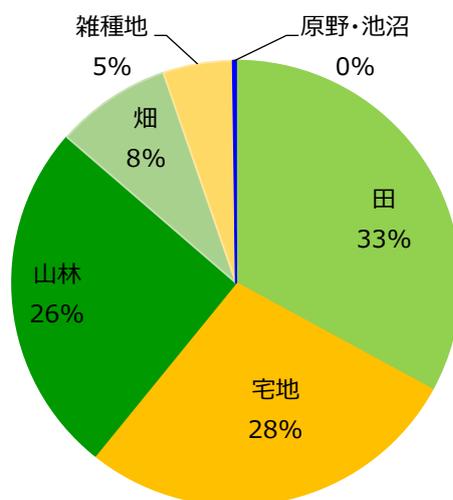
本市の総面積は、111.78 km²で、そのうち島しょ部の面積は 23.57 km²を占めます。

本市の土地利用は陸地部分の多くを農地が占めており、山林のほとんどは市の南部地域及び塩飽諸島にあります。一方、中心市街地には商業地や宅地が広がり、海岸の埋立地は工業用地となっています。近年の傾向としては、南部地域における宅地開発が進み、水田を中心とする農地の割合が減少しています。

地目別課税面積の割合は、田が 33%、宅地が 28%、山林が 26%と多くなっています。

地目別課税面積の状況

田	2,347ha
宅地	1,982 ha
山林	1,820 ha
畑	595 ha
雑種地	358 ha
原野・池沼	16 ha



資料：丸亀市統計書

(3) 交通

① 交通網

本市の東西方向の主要な幹線道路としては、中央部に国道 11 号、南部に国道 32 号、臨海部にさぬき浜街道があります。また、市街地中心部を通る主要地方道高松丸亀線があります。

国道 11 号は、高松自動車道と並行している道路で、西は愛媛県松山市、東は徳島県徳島市とを結び、四国を半周する幹線道路となっています。また、国道 32 号は、高知県高知市と高松市を結ぶ幹線道路となっています。

② 公共交通機関ネットワーク

鉄道は、市街地を東西に走る JR 予讃線があり、市内にある駅として、丸亀駅と讃岐塩屋駅があります。また、南部には琴平電鉄琴平線が通り、岡田駅と栗熊駅があります。

バスについては、1997 年 10 月より丸亀コミュニティバスが丸亀駅等を起終点として運行開始し、現在、レオマ宇多津線、丸亀東線、丸亀西線、丸亀垂水線、綾歌宇多津線の 5 路線で市内各地域を運行しています。また、島しょ部については、本島コミュニティバスを 2000 年 10 月、広島コミュニティバスを 2009 年 2 月より運行しています。

海路については、丸亀港を中心に、島しょ部や岡山方面への航路が運航されています。

環境への負担が少なく、充実した公共交通網を基礎に、将来を見据えた地域公共交通の仕組みの再構築や、「網羅的なネットワーク」から「必要なネットワーク」へと転換が必要とされています。

③ 自動車登録台数

本市の自動車登録台数は2021年度で99,357台あり、2017年度から947台（約1%）増加しています。

内訳をみると軽自動車が1,252台（約3%）と最も増えている一方で、特殊用途車・大型特殊車や原動機付自転車は減少しています。

また、車種別割合をみると軽自動車が最も多く半数近くを占め、次いで乗用車が多くなっており、この割合はほとんど変化がありません。

自動車登録台数の推移

台数（台）	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
貨物車	4,663	4,637	4,620	4,654	4,779
乗合車	139	142	141	147	144
乗用車	35,750	35,920	36,053	36,001	36,176
特殊用途車・大型特殊車	1,296	1,285	1,240	1,242	1,242
軽自動車	47,112	47,331	47,852	48,171	48,364
原動機付自転車	7,859	7,618	7,360	7,057	6,894
二輪小型車	1,591	1,621	1,676	1,739	1,758
合計	98,410	98,554	98,942	99,011	99,357

割合（%）	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
貨物車	4.7	4.7	4.7	4.7	4.8
乗合車	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
乗用車	36.3	36.4	36.4	36.4	36.4
特殊用途車・大型特殊車	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
軽自動車	47.9	48.0	48.4	48.7	48.7
原動機付自転車	8.0	7.7	7.4	7.1	6.9
二輪小型車	1.6	1.6	1.7	1.8	1.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

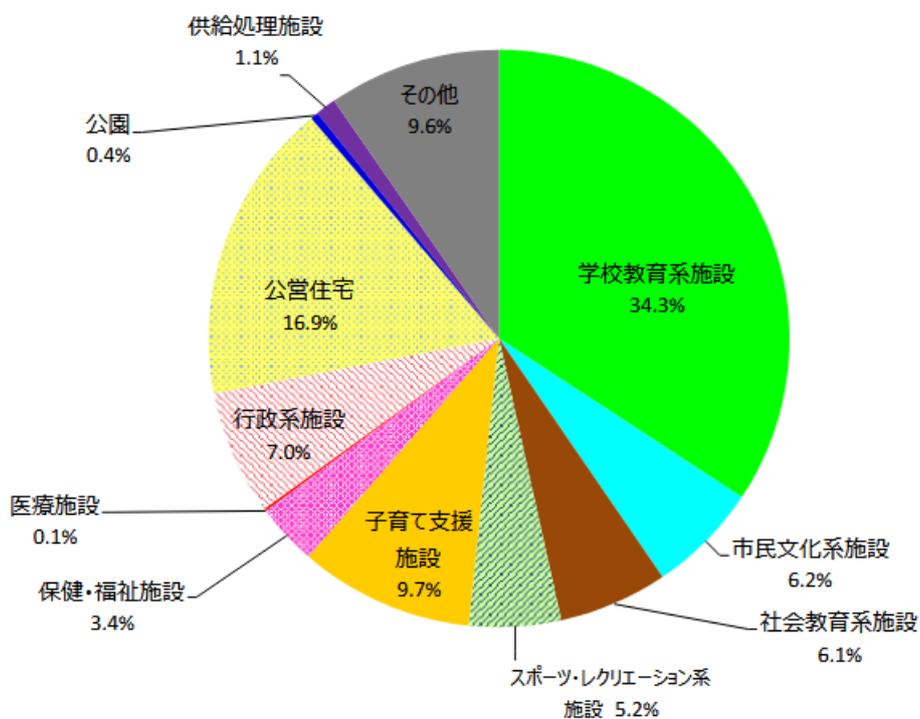
資料：丸亀市統計書

(4) 公共施設

本市が保有している建物系公共施設の施設数は 350 施設であり、これまで多くの公共施設を整備してきました。建物については、延床面積の合計は約 48 万㎡であり、主な施設類型の内訳は、学校教育系施設が 34.3%、公営住宅が 16.9%、子育て支援施設が 9.7%、庁舎等の行政系施設が 7.0%となっています。

これらの施設の多くは、1970 年代に整備され、1981 年以前に整備された旧耐震基準の施設は、全体の 46.4%を占めています。

老朽化が著しい施設は、大規模改修や建替えが必要となります。一般的には、鉄筋コンクリート造の建物の場合は、築後 30 年程度が経過すると大規模改修が、築後 60 年程度が経過すると建替えが必要になると言われており、1970 年代に整備された施設については、大規模改修や建替えの時期を迎えます。



建物系公共施設の類型ごとの面積割合

3. 産業・経済状況に関する地域特性と課題の整理

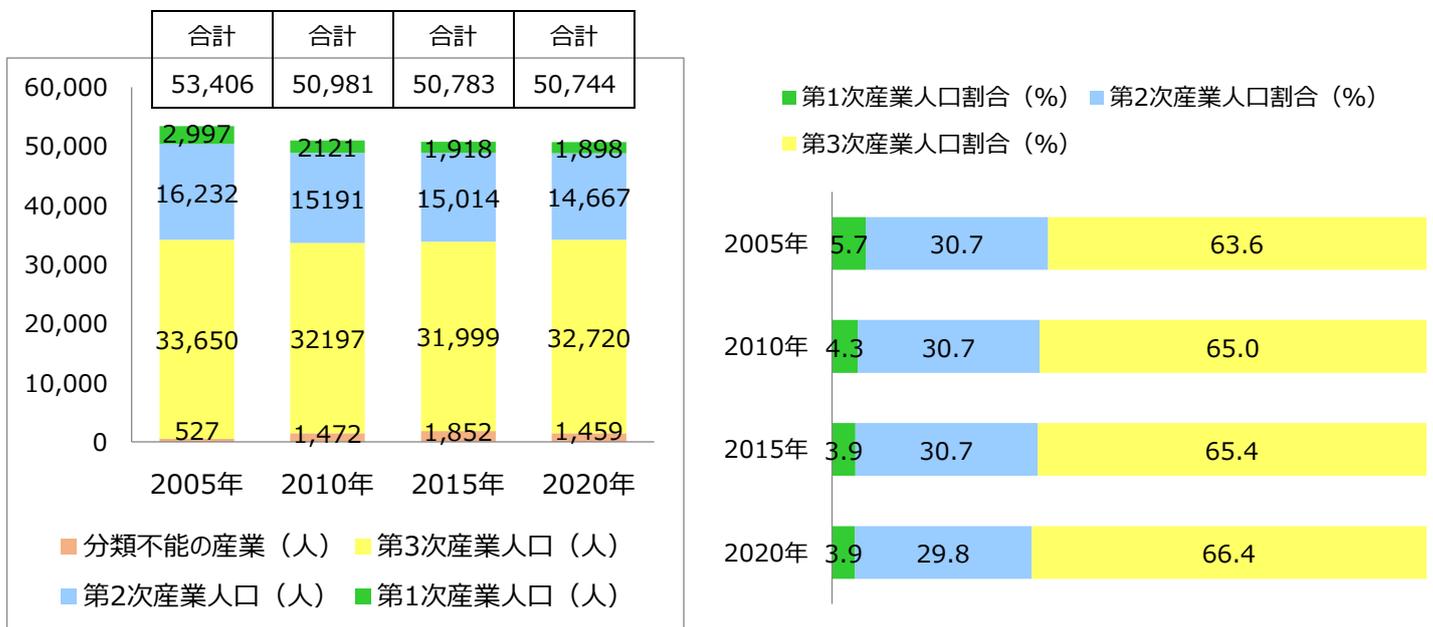
(1) 産業別就業者

本市の就業者数は 50,744 人（2020 年）で、2005 年当時と比べると 2,662 人（約 5%）減少しています。これを産業別にみると、第 1 次産業人口が 1,099 人（約 37%）、第 2 次産業人口が 1,565 人（約 10%）、第 3 次産業人口が 930 人（約 3%）減少しています。

産業人口の減少によって、地域産業の衰退、事業後継者不足による地場産業の廃業に伴う経済縮小が懸念されます。

また、産業別の人口割合は第 1 次産業及び第 2 次産業で減少傾向、第 3 次産業で増加傾向がみられ、2020 年時点では第 1 次産業が 3.9%、第 2 次産業が 29.8%、第 3 次産業が 66.4%となっています。

産業別就業者の推移



資料：国勢調査

(2) 農業

本市の販売農家数は 1,505 戸（2020 年）で、2010 年当時と比べると 540 戸（約 26%）減少しています。

また経営耕地面積は 1,747ha(2020 年)で、こちらも 2010 年当時と比べると 355ha(約 17%) 減少しています。

経営耕地の約 9 割は田ですが、近年では畑の面積が増加傾向にあります。

販売農家数・経営耕地面積の推移

	2010 年	2015 年	2020 年
販売農家数（戸）	2,045	1,773	1,505
経営耕地面積（ha）	2,102	2,242	1,747
田（ha）	1,937	2,074	1,570
畑（ha）	34	58	91
樹園地（ha）	131	109	86



資料：香川県統計年鑑

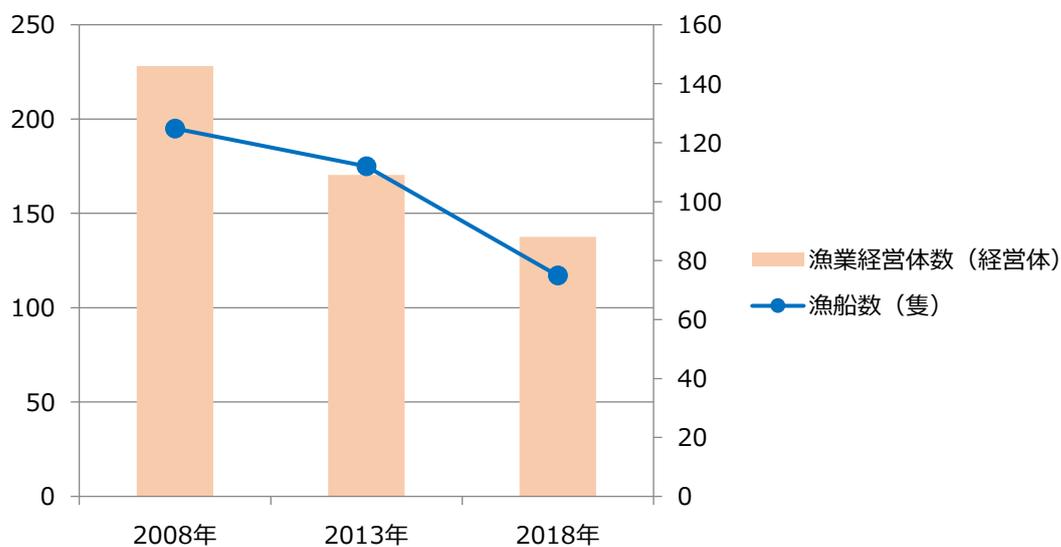
(3) 漁業

本市の漁業経営体数は 88 経営体（2018 年）で、2008 年当時と比べると 58 経営体（約 40%）減少しています。

また漁船数は 117 隻（2018 年）で、こちらも 2008 年当時と比べると 78 隻（約 40%）減少しています。

漁業経営体数・漁船数の推移

	2008 年	2013 年	2018 年
漁業経営体数（経営体）	146	109	88
漁船数（隻）	195	175	117



資料：香川県統計年鑑

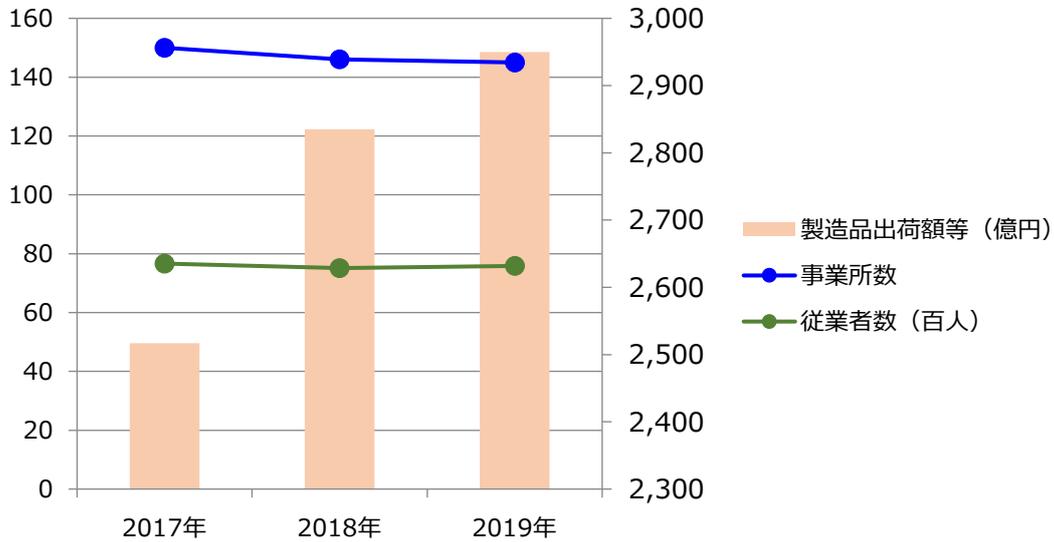
(4) 工業

2019年における本市の工業事業所数は145、工業従業者数は7,580人で、2017年当時と比べるとどちらも微減傾向にあります。

一方、製造品出荷額等は2,950億円（2019年）で、2017年当時と比べると433億円（約17%）増加しています。

工業事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移

	2017年	2018年	2019年
事業所数	150	146	145
従業者数（人）	7,660	7,510	7,580
製造品出荷額等（億円）	2,517	2,835	2,950



資料：香川県統計年鑑

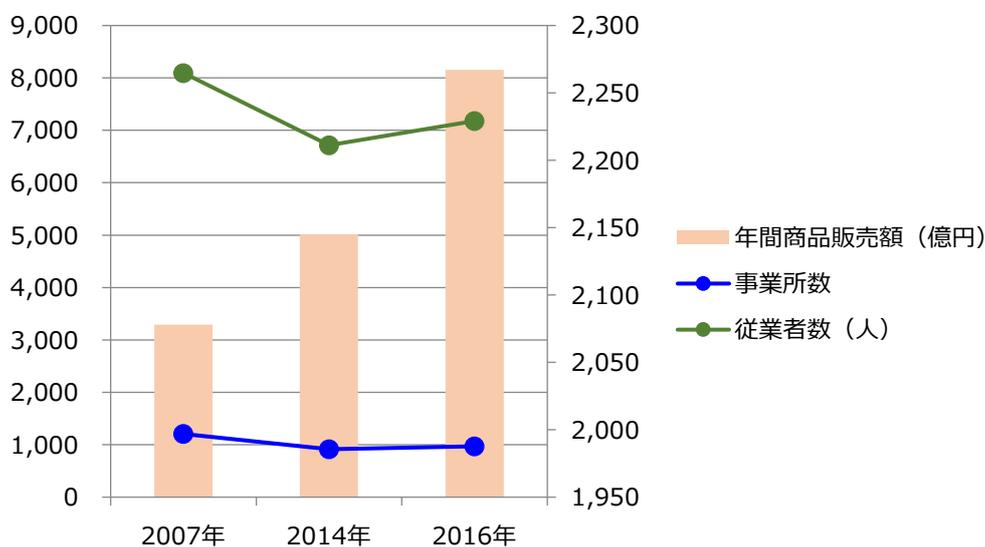
(5) 商業

本市の商業事業所数は971（2016年）で、2007年当時と比べると235（約19%）減少しています。

また商業従業者数は7,176（2016年）で、こちらも2007年当時と比べると919人（約11%）減少しています。

一方、年間商品販売等は2,267億円（2016年）で、2007年当時と比べると189億円（約9%）増加しています。

	2007年	2014年	2016年
事業所数	1,206	915	971
従業者数（人）	8,095	6,716	7,176
年間商品販売額（億円）	2,078	2,145	2,267



資料：香川県統計年鑑

(6) 観光

本市は、石垣の美しい丸亀城や中津万象園を中心とした歴史文化遺産、また、讃岐富士として有名な飯野山、戦国時代の塩飽水軍の拠点として知られる本島、四国最大級のレジャー施設であるニューレオマワールド等の魅力的な観光資源をもつことから、県内外より多くの観光客が訪れています。※「丸亀市緑の基本計画」p13

4. 供給処理・エネルギーの状況に関する地域特性と課題の整理

(1) 電気

本市における電灯の需要量は 270,526mWh（2017 年度）で、2013 年度から 2015 年度にかけて減少したのち、増加に転じています。

また電力の需要量は 425,582 mWh（2017 年度）で減少傾向にあり、2013 年度から 67,786 mWh（約 14%）減少しています。

電灯・電力の需要量の推移

(mWh)	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
電灯	280,075	269,100	260,492	266,157	270,526
電力	493,368	480,506	468,606	452,151	425,582

資料：丸亀市統計書

(2) 都市ガス・プロパンガス

本市における都市ガスの販売量は 607,153 m³（2020 年次）で、2016 年次から毎年増加していましたが、2020 年次に急減しました。都市ガス販売量の内訳は、約 2/3 を工業用、約 2 割を家庭用が占めています。

また、プロパンガスの消費量は 15,679 トン（2020 年度）で、2017 年度から減少傾向にあります。内訳は家庭・業務用が半分強を占めています。

都市ガス販売量の推移

(m ³)	2016 年次	2017 年次	2018 年次	2019 年次	2020 年次
家庭用	123,175	125,360	124,460	119,327	120,103
商業用	43,244	43,231	42,890	40,199	36,299
工業用	436,927	447,849	464,536	489,833	408,748
その他	38,808	39,841	41,752	41,732	42,003
合計	642,154	656,281	673,638	691,091	607,153

資料：丸亀市統計書

プロパンガス消費量の推移

(トン)	2016 年 度	2017 年 度	2018 年 度	2019 年 度	2020 年 度
家庭・業務用	10,008	10,375	9,835	8,782	8,448
工業用	6,814	6,906	6,448	7,360	7,231
合計	16,822	17,281	16,283	16,142	15,679

資料：丸亀市統計書

(3) 給水

本市における年間給水量は 13,283 千 m^3 （2020 年度）で、2016 年度以降は減少傾向にありましたが、2020 年度で増加に転じました。普及率は 99.86%（2020 年度）となっています。

年間給水量・給水人口・給水柱数・給水戸数・普及率の推移

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
年間給水量（千 m^3 ）	13,518	13,469	13,261	12,845	13,283
給水人口（人）	110,103	109,944	109,462	108,908	109,147
給水柱数（柱）	50,206	50,407	52,008	52,691	52,911
給水戸数（戸）	44,634	44,769	45,130	45,241	45,619
普及率（%）	99.71	99.79	99.71	99.80	99.86

資料：丸亀市統計書

(4) 公共下水道

本市では公共下水道の整備を進め、2020 年度には排水区域 1,734.6ha（2016 年度から 24.6ha 増加）、処理区域 1,728.6ha（2016 年度から 24.6ha 増加）、施行済管渠延長 352,076m（2016 年度から 7,483m 増加）となっています。

また、普及率（処理区域人口÷人口×100）は 2020 年度の時点で 43.8%となっています。

公共下水道の排水区域・処理区域・普及率・施工済管渠延長の推移

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
排水区域（ha）	1,710.0	1,726.1	1,728.1	1,733.0	1,734.6
処理区域（ha）	1,704.0	1,720.1	1,722.1	1,727.0	1,728.6
施工済管渠延長（m）	344,593	346,224	347,718	350,557	352,076
普及率（%）	44.2	44.1	44.0	43.5	43.8

資料：丸亀市統計書

(5) し尿

本市のし尿処理の年間総収集処理量は 4,477kl（2020 年）で、減少傾向にあります。処理人口が増えているため、処理人口当たりの処理量も減少傾向にあります。

し尿処理人口・処理量の推移

	2016 年	2017 年	2020 年
処理人口（人）	10,437	11,248	14,920
年間総収集処理量（kl）	5,522	5,182	4,477
処理人口当たり処理量（kl/人）	0.53	0.46	0.30

資料：香川県統計年鑑

(6) ごみ

本市のごみ総排出量は 35,026 t（2020 年度）で、2016 年度から 1,191 t（約 3%）削減されています。その内訳をみると、可燃ごみや資源ごみが大きく削減できている一方で、不燃ごみや粗大ごみはやや増加しています。これは 1 人当たりごみの内訳も同じ傾向です。

ごみの処理量については、焼却処理量は毎年増減を繰り返し、資源化処理量は減少傾向にあったのが 2020 年度には増加に転じ、埋立処分量は減少傾向にあります。また、リサイクル率は減少傾向にあったのが 2020 年度に増加に転じています。

ごみ収集量の推移

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
収集ごみ量（t）	24,814	24,373	24,245	24,496	24,801
直接搬入ごみ量（t）	11,403	11,875	11,052	11,280	10,225
ごみ総排出量（t）	36,217	36,248	35,297	35,776	35,026

（ごみの内訳）	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
可燃ごみ（t）	29,668	29,882	29,015	29,478	28,941
不燃ごみ（t）	1,358	1,319	1,374	1,403	1,468
粗大ごみ（t）	859	974	1,014	1,075	1,060
資源ごみ（t）	4,332	4,073	3,894	3,820	3,557

（1 人当たりごみの内訳）	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
1 人当たり可燃ごみ（g/人・日）	739.5	746.4	727.4	738	724.9
1 人当たり不燃ごみ（g/人・日）	33.9	33	34.4	35.1	36.8
1 人当たり粗大ごみ（g/人・日）	21.4	24.3	25.4	26.9	26.6
1 人当たり資源ごみ（g/人・日）	108	101.7	97.6	95.6	89.1
1 人当たりごみ総排出量（g/人・日）	902.7	905.5	884.9	895.6	877.3

ごみ処理量の推移

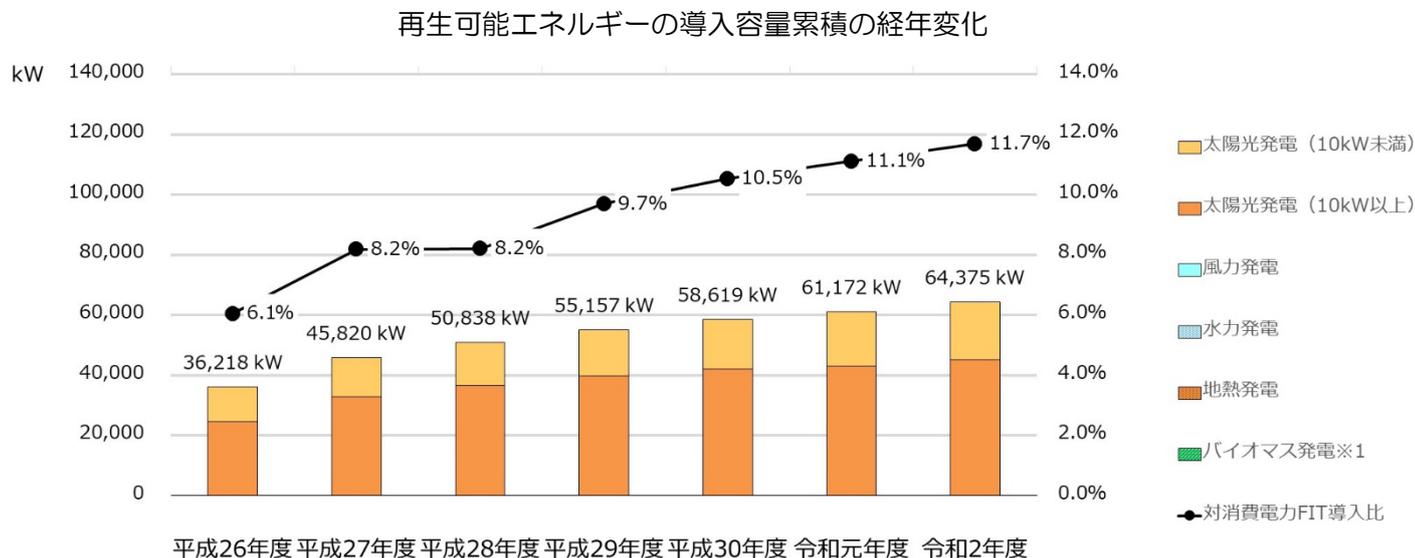
	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
焼却処理量（t）	30,696	31,026	30,442	31,335	30,651
資源化処理量（t）	4,899	4,541	4,367	4,295	4,873
埋立処分量（t）	4,133	3,763	3,690	3,518	2,504
リサイクル率	13.5	12.5	12.4	12.0	13.9

※資源化処理量÷総排出量

資料：第二次丸亀市一般廃棄物処理基本計画 後期計画

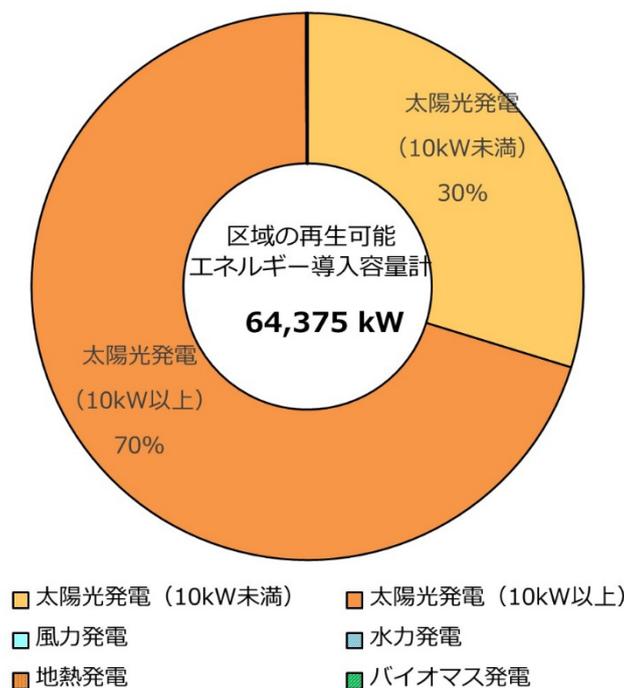
(7) 再生可能エネルギーの取組

環境省の「自治体排出量カルテ」によると、本市の再生可能エネルギーの導入状況は 64,375kW (2020 年度 (令和 2 年度)) で、2014 年度 (平成 26 年度) から 28,157kW (約 78%) 増加しています。その内訳はほとんどが太陽光発電で、10kW 以上が 70%、10kW 未満が 30%を占めています。



資料：環境省「自治体排出量カルテ」

区域の再生可能エネルギーの導入容量 (令和 2 年度 (2020 年度))



資料：環境省「自治体排出量カルテ」

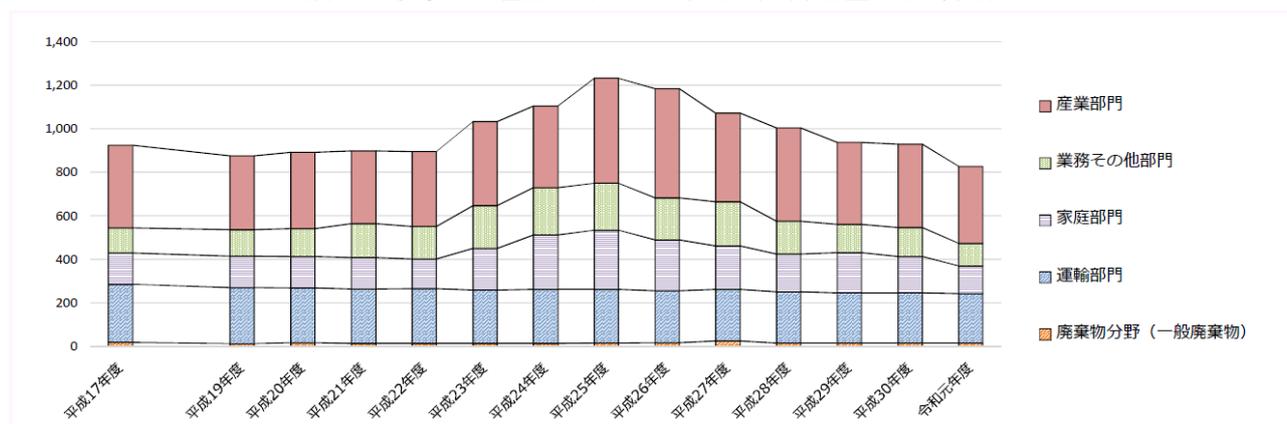
(8) 温室効果ガス排出量

環境省の「自治体排出量カルテ」によると、本市の温室効果ガス排出量は 2013 年度（平成 25 年度）に 1,232 千 t のピークを迎えたあと減少に転じ、2019 年度（令和元年度）には 827 千 t まで 405 千 t ・約 33%削減されています。

部門別にみた場合、ピーク時から最も削減されたのは家庭部門の 146 千 t ・約 53%減で、次いで業務その他部門の 112 千 t ・約 52%減、産業部門の 148 千 t ・約 29%減、となっています。

今後も温室効果ガス排出量を減らすには、全体の約 4 割を占める産業部門からの排出量をさらに減らすとともに、ピーク時からの削減量が比較的少ない運輸部門（とくに自動車）の排出量削減が課題です。

部門・分野別の温室効果ガス（CO2）排出量の経年変化



部門・分野	平成17年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	排出量 (千t-CO ₂)													
合計	924	875	892	898	895	1,033	1,104	1,232	1,184	1,071	1,004	937	928	827
産業部門	380	339	352	334	344	386	376	482	502	408	428	377	383	354
製造業	365	328	344	319	330	365	354	464	482	387	407	357	364	336
建設業・鉱業	10	10	7	8	7	12	12	10	8	8	7	7	7	6
農林水産業	5	1	1	8	7	9	10	9	11	13	14	13	12	12
業務その他部門	115	123	128	156	149	198	216	216	194	202	151	129	133	104
家庭部門	144	143	143	145	137	190	251	273	234	200	174	186	167	127
運輸部門	267	258	253	251	252	246	248	246	240	238	235	231	230	227
自動車	230	221	217	214	215	211	212	208	204	202	200	198	196	193
旅客	130	126	124	126	127	126	128	125	121	120	120	119	118	115
貨物	99	95	93	88	88	84	84	83	84	82	80	79	78	77
鉄道	7	7	7	7	7	8	9	9	8	8	8	8	7	7
船舶	31	30	29	30	30	27	28	29	27	27	27	26	27	27
廃棄物分野（一般廃棄物）	17	12	16	12	12	12	13	15	15	24	15	14	15	15

資料：環境省「自治体排出量カルテ」

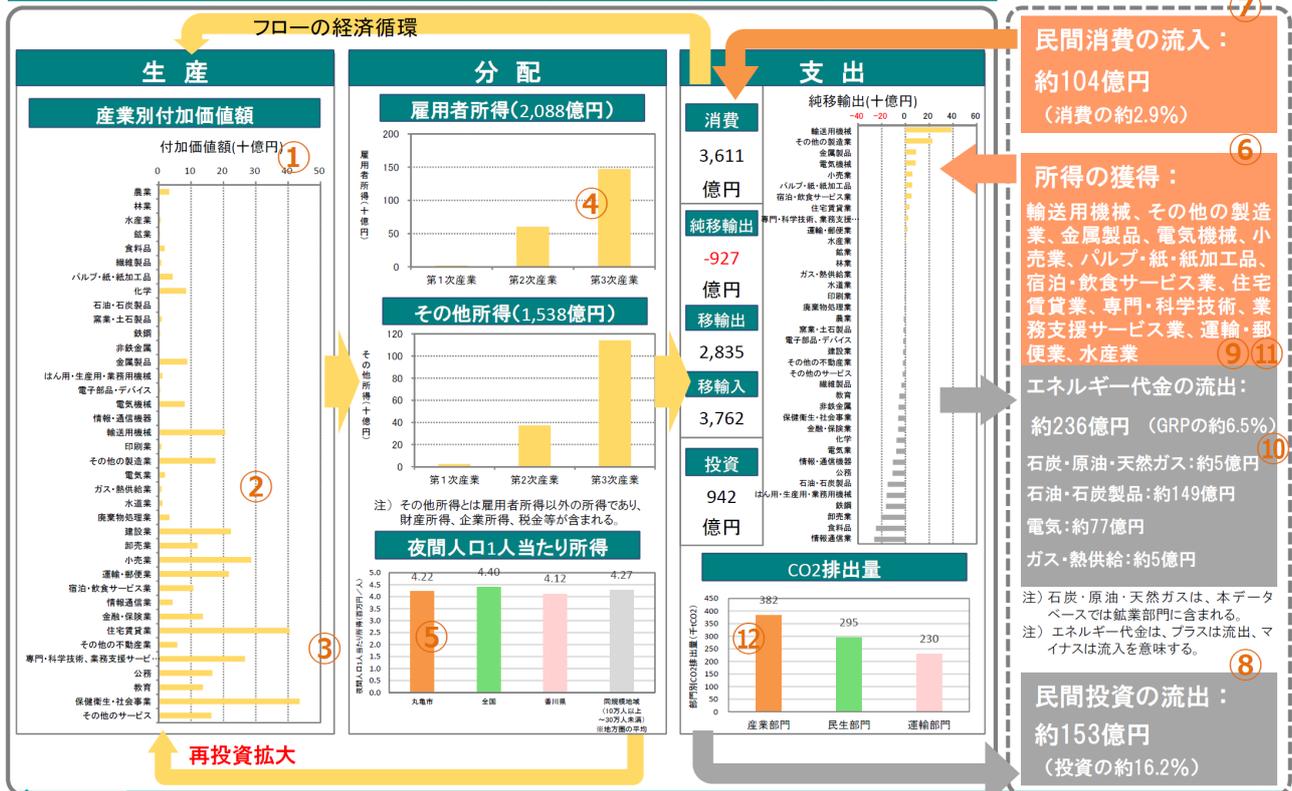
(9) エネルギー経済

環境省が提供する地域経済循環分析（2018年版）によると、本市の市内総生産額 3,626 億円に対して、エネルギー代金（約 236 億円）が市域外に流出しており、石油・石炭製品の流出額が最も多く、次いで電気の流出額が多くなっています。

今後は、エネルギーの地産地消を進め、市域外へのエネルギー代金の流出を食い止めるための施策が重要な課題として挙げられます。

地域の所得循環構造①

丸亀市総生産(総所得/総支出)3,626億円【2018年】



環境省 Ministry of the Environment DBJ 株式会社 価値総合研究所 注) 消費 = 民間消費 + 一般政府消費、投資 = 総固定資本形成 (公的・民間) + 在庫純増 (公的・民間)

5. まとめ

区分	特性	活用イメージ
自然的特性	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 年平均気温は概ね 16.7℃で温暖 ✓ 年間降水量は概ね 1,255mm ✓ 年間日照時間は 2,165 時間程度で安定 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 安定した日照条件を生かした太陽光発電の導入 ✓ 自然の通風や温暖な気候を生かした空調等における省エネルギー
地理的特性	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 海と山に囲まれ、豊かな自然環境が残っている地域特性 ✓ 地理的に降水量が少なく、常に水不足に悩まされてきたことから、主に農業用水として、市内には多数のため池 ✓ 環境保全や生物多様性の視点から重要な地域が存在 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 宅地（住宅）、ため池への太陽光発電の導入 ✓ ブルーカーボンの検討 ✓ 小水力発電 ✓ 森林の保全
社会的特性	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 世帯数の増加、少子高齢化の進行 ✓ 南部地域において宅地開発が進行、水田を中心とする農地の割合が減少 ✓ 鉄道、バス、航路のほか、島しょ部においてはコミュニティバスが運行 ✓ 建物系公共施設は 350 施設、1970 年代に整備された施設については大規模改修や建替えの時期を迎える ✓ 第 1 次産業、第 2 次産業の就業者数は減少、第 3 次産業の就業者数は増加傾向 ✓ 農家数は減少傾向 ✓ 経営耕地の約 9 割は田であるが、近年では畑が増加傾向 ✓ 漁業経営体数、漁船数は減少傾向 ✓ 製造品出荷額は増加、製造事業所数、従業者数は減少傾向 ✓ 観光資源があり、島内外より多くの環境客が訪れる ✓ 電力の消費量は年々減少 ✓ 都市ガス販売量は、毎年増加傾向であったが、2020 年次に急減 ✓ プロパンガスは、2017 年度から減少傾向 ✓ 給水普及率は 99.86% ✓ 公共下水道普及率は 43.8% ✓ し尿の処理人口当たり処理量は増加傾向 ✓ ごみ収集量は横ばい ✓ 再生可能エネルギー導入のほとんどは太陽光発電であり、導入量は増加傾向 ✓ 温室効果ガス排出量は、2013 年度にピークを迎えた後減少に転じている ✓ エネルギー代金（236 億円）の流出 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 住宅の省エネ化・ZEH化 ✓ 住宅用太陽光発電設備への蓄電池導入 ✓ 工場・事業場への省エネ・ZEB化、PPAモデルの導入 ✓ 卸売・小売業における省エネ化 ✓ 業務ビル等の ZEB化 ✓ 電気自動車等の導入促進 ✓ 公共交通機関の低炭素化 ✓ ごみ焼却余熱・下水熱等の未利用エネルギーの活用 ✓ エネルギーの地産地消